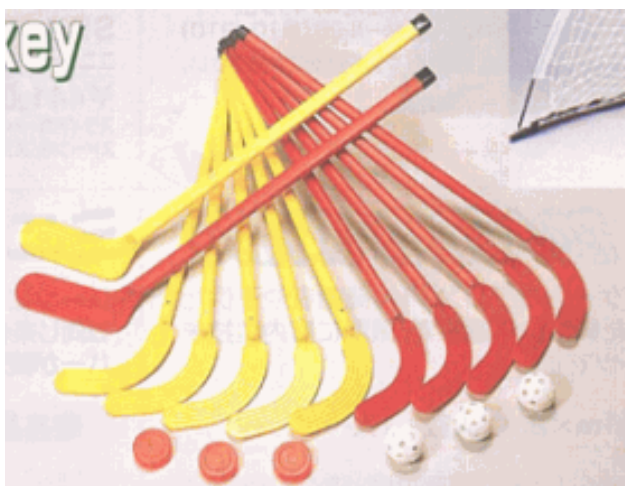


《スーパーホッケー》

・相手チームのゴールポストに、スティックを使ってボールをシュートし、得点を競うゲームです。

写真



起源

・簡単に言えば室内ホッケーで、フィールドホッケーの雨天時の体育館等室内の練習用に考案された。
 ・平成 15 年静岡国体フィールドホッケー競技の振興のため、平成 10 年度より清水町ホッケー教室に導入された。競技の公式ルールが確立されていないため、清水町ホッケー協会で独自のルールを決め、ホッケー競技振興に取り組んでいる。

人数

・1チーム 4 名(高校生、成年)又は 5 名(小中学生)の 2 チームに分かれて行う。

場所

・バスケットコート競技場とし、バスケットの 3 ポイントラインをシューティングサークルとして使用する。

進め方

・チームごとに、ゴールキーパー、バック、ハーフ、フォワード、等役割を決めてから試合に臨む。(ゴールキーパーも攻撃に参加してかまわない。)
 ・各チームの代表 1 名がセンターサークルに入り、フェイスオフを行って開始する。フェイスオフとは、自陣を背にして、センターラインに置かれたボールからブレードをそれぞれ 30cm 離して床に着け、レフリーの合図でボールを奪い合うことである。
 ・フェイスオフを行う以外のプレイヤーは、自陣内のセンターサークル外でフォーメーションを組む。
 ・フェイスオフを行ったプレイヤーは、他のプレイヤーが触れるまではボールに触れてはならない。
 ・ゴールがなされた後、及び後半の競技再開のときは、フェイスオフでゲームを開始する。

勝敗

・得点は、1 ゴールにつき 1 得点で、ゴール前のシューティングサークル(通常サークル)と呼ばれる半円の中からのシュートのみが得点として認められる。

決め

・前後半 10 分ずつ、計 20 分で総得点を競う。(前後半でコートチェンジする。)
 ・前後半が終了し、同点の場合、5 分の延長戦か、P.S(ペナルティー・ストローク)により決着をつける。(P.S は、2 チーム交互に 4 人～5 人の同数で全員が行う。それでも同点の場合は、サドンデスで行うか、抽選とする。)

その他

・競技中、ゴールキーパー以外は、スティックの平らな面でしかボールを扱うことができない。(ゴールキーパーのみ、スティック以外の体でもボールを扱うことができる。)
 ・ファールなど、ルールの詳細はフィールドホッケーと同じ。